

教育現場における「音楽科」の指導に対する一考察

— 小学校における鍵盤ハーモニカの導入法 —

Consideration to teaching "Music" in the school education.
— Introduction method of keyboard harmonica in elementary school. —

木 許 隆
(こども学科 准教授)

要旨 本稿は、平成23年度より新小学校学習指導要領が全面実施されることにもとづき、小学校における「音楽科」の授業内容を見つめ直したいと考え執筆したものである。「音楽に対する苦手意識をもつ児童が多いのはなぜか。」率直な疑問であるが、解決の糸口は見いだされていない。苦手意識をもった児童が、小学校6年間をとおして「音楽科」の授業を受けることによって、音楽に対する偏見が生まれていくように思えてならない。まず、好きになること、好きになるにはどのような指導方法があるのかを探りたいと考えている。

【キーワード：音楽教育 小学校 導入方法】

はじめに

昨今、小学校における「音楽科」において、苦手意識を持つ児童が増えていることを耳にする。そして、小学校の教育現場において、児童に対し「音楽は好きですか。」という質問を投げかけると、「嫌い。」と答える児童が多いことに驚かされる。特に、高学年になると音楽に対する苦手意識が確立されたものとなり、授業に対する準備や授業内の態度にもそれが反映されているようである。

本来、小学校における様々な音楽活動は、現行の小学校学習指導要領の中にも掲げられているとおり、音楽を愛好する心情や音楽に対する感性を育て、豊かな情操を養うことを目標とされているはずである。しかし、前出のように「嫌い。」と答える児童が多いことは、筆者も含め指導する立場にある者たちが、導入段階において興味を持たせる授業を展開できていないのではないかと考えざるをえない。そこで、本稿では、平成23年度より全面実施される新小学校学習指導要領をもとに、第1学年における鍵盤ハーモニカの導入方法を探り、それらの導入時における指導案について研究するものである。

I 研究方法

まず、現行の小学校学習指導要領と新小学校学習指導要領の内容を比較し、改訂の経緯、趣旨などを理解する。そして、音楽科における改訂・

改善点を理解することによって、新小学校学習指導要領で求められている音楽的な到達目標を理解する。また、表現領域（器楽分野）において使用される鍵盤ハーモニカの特性や演奏方法を理解し、それらの導入方法を研究する。

II 研究内容および考察

1 新小学校学習指導要領

(1) 内容

新小学校学習指導要領は、約60年ぶりに改正された教育基本法をもとに、平成20年3月、学校教育法施行規則が改正され公示されたものである。そして、平成21年度より移行措置として、算数および理科を中心に内容を前倒して実施するとともに、平成23年度より全面実施することになっている。また、次代を担う児童の知識、情報、技術が、国際的な社会における活動の基盤となり、確かな学力、豊かな心、健やかな身体の調和など、「生きる力」を育むことを重視している。

(2) 音楽科における改訂・改善点

音楽科の教科目標は、これまでの基本理念とは変わらず、小学校における児童の育成を担う音楽科の役割を継承している。そして、児童の心情、感性、能力を関連付けながら授業展開することによって、豊かな情操を養うことを目標としている。

内容構成は、これまでの表現領域と鑑賞領域の中に「共通事項」を設け、より明確な指導内容が

明記されることになった。そして、表現領域では、歌唱、器楽、音楽づくりの3つの分野について、各分野の指導内容が明記されている。特に、歌唱分野では、共通教材の数を増やし、「うたう活動」を充実させようとしている。また、音楽づくり分

野では、即興的な表現をとおして、音自体の面白さに気付くことや、自由な発想を持って音楽をつくる楽しみを感じられることの重要性を明記している。さらに、鑑賞領域では、第3学年および第4学年に日本音楽の鑑賞を新設している。

(3) 内容の取扱いおよび指導上の配慮

各学年の表現領域にある器楽分野には、以下のような内容が明記されている。

<p>内容の取扱いおよび指導上の配慮</p> <p>○ 第1学年・第2学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・器楽の活動を通して、次の事項を指導する。 ア 範奏を聴いたり、リズム譜などを見たりして演奏すること。 イ 楽曲の気分を感じ取り、思いをもって演奏すること。 ウ 身近な楽器に親しみ、音色に気を付けて簡単なリズムや旋律を演奏すること。 エ 互いの楽器の音や伴奏を聴いて、音を合わせて演奏すること。 <p>○ 第3学年・第4学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・器楽の活動を通して、次の事項を指導する。 ア 範奏を聴いたり、ハ長調の楽譜を見たりして演奏すること。 イ 曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって演奏すること。 ウ 音色に気を付けて旋律楽器及び打楽器を演奏すること。 エ 互いの楽器の音や副次的な旋律、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏すること。 <p>○ 第5学年・第6学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・器楽の活動を通して、次の事項を指導する。 ア 範奏を聴いたり、ハ長調及びイ短調の楽譜を見たりして演奏すること。 イ 曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって演奏すること。 ウ 楽器の特徴を生かして旋律楽器及び打楽器を演奏すること。 エ 各声部の楽器の音や全体の響き、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏すること。 <p style="text-align: right;">小学校学習指導要領（平成20年3月改訂）より抜粋</p>

そして、「指導計画の作成と内容の取扱い」においては、以下のようにより具体的な使用楽器などを明記し、指導上の配慮事項としている。

<p>指導計画の作成と内容の取扱い</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 各学年で取り上げる打楽器は、木琴、鉄琴、和楽器、諸外国に伝わる様々な楽器を含めて、演奏の効果、学校や児童の実態を考慮して選択すること。 イ 第1学年及び第2学年で取り上げる身近な楽器は、様々な打楽器、オルガン、ハーモニカなどの中から学校や児童の実態を考慮して選択すること。 ウ 第3学年及び第4学年で取り上げる旋律楽器は、既習の楽器を含めて、リコーダーや鍵盤楽器などの中から学校や児童の実態を考慮して選択すること。 エ 第5学年及び第6学年で取り上げる旋律楽器は、既習の楽器を含めて、電子楽器、和楽器、諸外国に伝わる楽器などの中から学校や児童の実態を考慮して選択すること。 <p style="text-align: right;">小学校学習指導要領（平成20年3月改訂）より抜粋</p>

(4) 考察

これまでの研究により、新小学校学習指導要領の概要および音楽科における表現領域（器楽分野）

における指導内容が見えつつある。そこで、筆者は、以下のことに注意しながら指導しなければならないと考える。

まず、子どもの音楽活動の根本には、「うたう活動」「きく活動」「ひく活動」「うごく活動」「つくる活動」という5つの活動があることを忘れてはならない。そして、「うたう活動」に重点を置くとするならば、児童が歌詞の内容や意味を理解し、のびのびと歌うことによって心を解放することが重要である。

次に、「内容の取扱い」では、各学年ともに「範奏を聴いたり、(中略)楽譜などを見たりして演奏すること。」とある。この部分において、児童が、範奏や範唱を聴くことによって音楽を学び、その音楽を再現することに終始しないか懸念される。そして、第6学年までに楽譜を読みとる力を蓄え、音楽を自ら再現することができるよう指導することも必要ではないかと考える。

また、児童が使用する打楽器には、「体鳴楽器」「膜鳴楽器」「気鳴楽器」「電鳴楽器」「効果楽器」などの種類があり、それらの中に、「無音程打楽器」と「有音程打楽器」の区別があることや材質の分類があることを理解しなければならない。そして、児童が演奏するときに演奏技術として無理のないものを選択しなければならないであろう。

さらに、第1学年で鍵盤楽器の一種であるオルガンと、気鳴楽器の一種であるハーモニカを組み合わせた鍵盤ハーモニカを使用することは、音楽的成長を促すのに適した教材選択と言える。特に、鍵盤ハーモニカを使用してタンギングの技術を習得することによって、第3学年から使用するリコーダーへの技術的な導入と考えられるであろう。

これらに日本の音楽および諸外国の民族音楽を組込むことによって、異なる文化や文明の理解や国際的な視野の基礎を学びとる教育へと発展していくように思われる。

2 鍵盤ハーモニカ

(1) 楽器の特性

1970年代までの小学校では、教育用楽器としてハーモニカが使用されていた。しかし、ハーモニカには確立された奏法がなく、教員側もハーモニカの教育を受けていないという理由などから、指導が困難であったことは言うまでもない。また、呼気だけでなく吸気によって音を出すということから、児童が演奏するには大変高い技術を要するものだと考えられていた。そこで、鍵盤ハーモ

ニカが教育用楽器として取って代わるようになった。

鍵盤ハーモニカは、金属製のリードを呼気で鳴らす楽器で、鍵盤と連動したバルブによって特定のリードを演奏することのできる楽器である。ハーモニカと大きく異なる部分は、音程や和音^{*1}の演奏が容易になったということである。そして、子どもが親しみ演奏しやすいよう鍵盤を小さくして配列し、楽器自体を軽量化している。また、鍵盤楽器および管楽器の性質を兼ね備えるところから、息のスピード感を調整することによって、強弱を容易に付けることができ、表現力豊かな演奏が可能である。さらに、タンギングによって音の立ち上がりや音の処理を明確にすることができることなどが特徴と考えられる。

同じ発音の原理を持つアコーディオンと比較すると、音量においてはアコーディオンの方が強い。そして、アコーディオンの演奏方法の特性から、レガート奏法は得意とするがスタッカート奏法については非常にテクニックを要する。それに対して鍵盤ハーモニカは、レガート奏法、スタッカート奏法ともに息のスピード感によって変化させることができるため、容易に演奏できると言っている。

※1：筆者は、2つの音が同時に響くと「音程」、2つ以上の音が流れると「メロディ」、高さが異なる3つ以上の音が同時に響くと「和音」になると考えている。

(2) 考察

現代の子どもが、メロディを演奏できる楽器として最初にふれるのは、おそらく鍵盤ハーモニカと言っても過言ではないであろう。そして、次にふれるものとしてリコーダーが挙げられる。しかし、これらの楽器を長きにわたって演奏する者が少ないことには驚かされる。情操教育は、一人ひとりの児童の興味や関心を尊重し追求させながら情操を育てていくものであるはずである。現在の大人たちが育ってきた学歴至上主義を背景として知識偏重になっていた学校教育、伝統文化などに対する関心が諸外国と比較して薄いというような状況から、情操教育が成り立っていなかったということも言えるであろう。十分にできていないというより、一層の必要性・発展が求められてきた。現行の教育基本法の中にも「幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操

と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと」とあるように、音楽を含めた情操教育を早急に改革しなければならないであろう。

3 音楽科学習指導案

これまでの研究から、「音楽嫌い」である子どもを一人でも少なくし、音楽を情操教育という枠から、生涯教育の領域へと広げ深めるためには、まず、「興味を持つ」ということに終始するように思う。このような観点から、筆者が指導にかかわる A 小

学校における第 1 学年の指導計画に対して、鍵盤ハーモニカの導入方法（第 1 時間目の授業計画）を探る。

(1) 第 1 学年音楽科学習指導計画

- ① 題材：「鍵盤ハーモニカって楽しいね」
- ② 題材のねらい：鍵盤ハーモニカの取扱いや演奏方法を理解する。そして、音色を感じ 5 本の指を使い弾くことの楽しさを味わう。また、音の出し方によって音の響きが違うことに気づき、音に興味・関心をもつ。

③ 学習指導要領^{※2}との関連性

指導事項 A 表現 (1) 歌唱 アイ (2) 器楽 アウ (3) 音楽づくり ア B 鑑賞 (1) イウ
 共通事項 ア (ア) 音色 リズム 旋律 強弱 (イ) 反復 問いと答え

※2 学習指導要領より「第 1 学年の目標及び内容」

第 1 学年の目標及び内容

1 目標

- (1) 楽しく音楽にかかわり、音楽に対する興味・関心をもち、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにする態度と習慣を育てる。
- (2) 基礎的な表現の能力を育て、音楽表現の楽しさに気付くようにする。
- (3) 様々な音楽に親しむようにし、基礎的な鑑賞の能力を育て、音楽を味わって聴くようにする。

2 内容

A 表現

- (1) 歌唱の活動を通して、次の事項を指導する。
 - ア 範唱を聴いて歌ったり、階名で模唱したり暗唱したりすること。
 - イ 歌詞の表す情景や気持ちを想像したり、楽曲の気分を感じ取ったりし、思いをもって歌うこと。
 - ウ 自分の歌声及び発音に気を付けて歌うこと。
 - エ 互いの歌声や伴奏を聴いて、声を合わせて歌うこと。
- (2) 器楽の活動を通して、次の事項を指導する。
 - ア 範奏を聴いたり、リズム譜などを見たりして演奏すること。
 - イ 楽曲の気分を感じ取り、思いをもって演奏すること。
 - ウ 身近な楽器に親しみ、音色に気を付けて簡単なリズムや旋律を演奏すること。
 - エ 互いの楽器の音や伴奏を聴いて、音を合わせて演奏すること。
- (3) 音楽づくりの活動を通して、次の事項を指導する。
 - ア 声や身の回りの音の面白さに気付いて音遊びをすること。
 - イ 音を音楽にしていくことを楽しみながら、音楽の仕組みを生かし、思いをもって簡単な音楽をつくること。
- (4) 表現教材は次に示すものを取り扱う。
 - ア 主となる歌唱教材については、各学年ともウの共通教材を含めて、斉唱及び輪唱で歌う楽曲
 - イ 主となる器楽教材については、既習の歌唱教材を含めて、主旋律に簡単なリズム伴奏や低声部などを加えた楽曲
 - ウ 共通教材
 - ・「うみ」（文部省唱歌）林柳波作詞 井上武士作曲 ・「かたつむり」（文部省唱歌）
 - ・「日のまる」（文部省唱歌）高野辰之作詞 岡野貞一作曲
 - ・「ひらいたひらいた」（わらべうた）

B 鑑賞

(1) 鑑賞の活動を通して、次の事項を指導する。

ア 楽曲の気分を感じ取って聴くこと。

イ 音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取って聴くこと。

ウ 楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲や演奏の楽しさに気付くこと。

(2) 鑑賞教材は次に示すものを取り扱う。

ア 我が国及び諸外国のわらべうたや遊びうた、行進曲や踊りの音楽など身体反応の快さを感じ取りやすい音楽、日常生活に関連して情景を思い浮か

べやすい楽曲

イ 音楽を形づくっている要素の働きを感じ取りやすく、親しみやすい楽曲

ウ 楽器の音色や人の声の特徴を感じ取りやすく親しみやすい、いろいろな演奏形態による楽曲

[共通事項]

(1) 「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して、次の事項を指導する。

ア 音楽を形づくっている要素のうち次の（ア）及び（イ）を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取ること。

（ア）音色、リズム、速度、旋律、強弱、拍の流れやフレーズなどの音楽を特徴付けている要素 （イ）反復、問いと答えなどの音楽の仕組み

イ 身近な音符、休符、記号や音楽にかかわる用語について、音楽活動を通して理解すること。

小学校学習指導要領（平成20年3月改訂）より抜粋

④ 題材観：鍵盤ハーモニカの取扱いや基本的な演奏方法を覚えることはもちろんのこと、美しい音を意識しながら簡単なメロディが演奏できることをねらいとしている。子どもは、友だちと歌うことや、音楽に合わせて身体表

現することが好きである。これらを生かし、楽器を使用した新しい表現方法を学習することによって、音楽表現の幅を広げてほしいと考える。

⑤ 評価基準（A 小学校第1学年）

	A 音楽への関心・ 意欲・態度	B 音楽的な感受や 表現の工夫	C 表現の技能	D 鑑賞の能力
題材における 評価基準	鍵盤ハーモニカに興味をもち、音あそびをとおして演奏できる。	楽曲の雰囲気を感じとり、音の出し方や歌い方を工夫することができる。	鍵盤ハーモニカでメロディを演奏できる。	周りの楽器の音色を聴くことができる。
学習における 具体的な評価基準	(a) 鍵盤ハーモニカに関心をもち、進んで演奏できる。 (b) リズムに合わせて音あそびを楽しむことができる。	(a) 楽器の音色を感じ、音の出し方に工夫することができる。 (b) 音の高低や強弱を使用して擬音を表現できる。 (c) 楽曲の雰囲気を感じ、歌い方を工夫することができる。	(a) 拍に合わせてメロディを階名唱することができる。 (b) 拍に合わせてメロディを演奏することができる。 (c) 音色を選択しメロディを演奏することができる。	(a) 様々な楽器の音色を感じ、その音色を聴くことができる。

⑥指導計画と評価（11 時間扱い：A 小学校第 1 学年）

時間	主な学習内容	具体的な 評価基準	学習指導要領 との関連性		共通事項			評価方法 および 支援方法
			表現	鑑賞	ア		イ	
					(ア)	(イ)		
1	鍵盤ハーモニカの演奏方法を知る。 ・構え方を知り，自由に音を出す。 ・無理のない息使いで音を出す。	A-(a)	(2)- ア		音色			観察 個別支援
2	鍵盤ハーモニカでリズムを演奏する。 ・ドからソまでの音について鍵盤の位置を確認する。 ・無理のない息使いやタンギングを確認する。	B-(a)	(2)- ウ		音色		四分音符	観察 聴き取り
3	歌に続けてリズムを演奏し音楽づくりをする。 ・擬音などを楽しみ情景描写をする。	B-(b)	(3)- ア		音色 強弱		四分音符	観察 聴き取り
4	楽曲の雰囲気をつかみながら音楽を聴く。 ・様々な楽器の音色の違いを感じる。 ・感じた音について話し合う。	D-(a)			音色			発表 写真などの 提示
5	リズムに合わせた模倣（1）を行う。 ・ドからソまでの音を用いてまねっこあそびを行う。	A-(b)	(3)- ア		旋律 リズム			観察 個別支援
6	リズムに合わせた模倣（2）を行う。 ・音の跳躍を感じまねっこあそびを行う。	A-(b)	(3)- ア		旋律 リズム			観察 聴き取り
7	絵譜を見ながら階名唱する。 ・メロディを感じながら歌う。	C-(a)	(1)- ア		音色			聴き取り 拡大譜の 提示
8	鍵盤ハーモニカで演奏することに慣れる（1）。 ・メロディをフレーズごとに演奏する。	C-(b)	(2)- ア		音色 旋律			聴き取り 個別支援
9	鍵盤ハーモニカで演奏することに慣れる（2）。 ・メロディをつなぎ，演奏したり聴き合ったりする。	C-(c)	(2)- ウ		音色 旋律			聴き取り 個別支援

10	楽曲の雰囲気を感じ取る (1)。 ・歌声に気をつけ様子を思い浮かべながら歌う。	B-(c)	(1)- イ		音色		発表 聴き取り
11	楽曲の雰囲気を感じ取る (2)。 ・歌声に気をつけ様子を思い浮かべながら歌う。	B-(c)	(1)- イ		音色		発表 聴き取り

⑦学習活動の展開

第1学年の授業を展開するにあたり注意しなければならないことは、子どもの集中力の持続時間の計算である。この指導計画では、約2分から5分で新しいことについて学ぶようになっている。

実際は、導入から本題へとつながっていくため、5分から7分で本題を学ぶことになる。教える側が次へのアプローチをよく考え、子どもが結果として「できた。」という喜びを味わうことによって、学習意欲が高まり内容理解が深まると考える。

◎ 指導案例

段階	学習活動	指導・支援	評価観点
導入	<p>① あいさつ</p> <p>② リズムあそび ・あいさつの言葉を手拍子でリズム打ちをする。</p> <p>③ 音あてクイズ ・答えがわかったら右手を挙げる。</p> <p>④ 指の体操 ・フレールジャック (フランス民謡) の替え歌により指の体操をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>1. おやゆび父さん こんにちは ※ ご機嫌いかが はいハイバイ</p> <p>2. やさしい母さん こんにちは ※</p> <p>3. ノッポの兄さん こんにちは ※</p> <p>4. おしゃれな姉さん こんにちは ※</p> <p>5. かわいい赤ちゃん こんにちは ※</p> <p>6. 5人のかぞく こんにちは ※</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・元気よくあいさつし、児童の気持ちを切替え、学習への意欲を高める。 ・あいさつの言葉 (おはよう、こんにちは、こんばんは、さようなら) を児童に投げかけ、リズム打ちを促す。 ・様々な音 (救急車、クラクション、時報) に気付くようクイズを行なう。 ・親指は指の外側を、その他の指は指のハラを使って弾くことを、手を合わせながら説明する。 ・指のどの部分を使って鍵盤を押さえ弾くのかを、児童に意識させながら歌う。 	<p>リズムに合わせてリズム打ちができる。</p> <p>音色の違いが認識できる。</p> <p>打鍵する時に使う指の位置が理解できる。</p>
展開	<p>⑤ 鍵盤ハーモニカ各部の名称を学ぶ</p> <p>・説明に耳をかたむけ、板書された言葉を復唱する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・模範演奏として児童のよく知る曲を演奏する。 ・各部の名称および機能、用途を説明しながら名称のみを板書し復唱する。 ・板書内容 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>けんばんハーモニカ うたくち けんばん</p> </div>	<p>鍵盤ハーモニカ各部の名称を理解できる。</p>

<p>展開</p>	<p>⑥ 唄口の使用方法を学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケースから唄口を取り出し、ケースを閉じる。 ・唄口で輪を作り、どちらの先を口に持っていくのか確認する。 ・口に当てる部分を噛まずに、左手を添え持つことを理解する。 <p>⑦ 「ド」の位置を学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・右手グーでは黒鍵が3つ並んだ部分を、チョキでは黒鍵が2つ並んだ部分を押さえる。 ・チョキから親指を出すことによって、白鍵上の「ド」を発見する。 ・手をパーにすることによって、5本の指を鍵盤上に置く。 <p>⑧ 美しい音を学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おへそで待つことを確認し、楽器本体に唄口をつなぐ。 ・「ド」の音を親指で弾き、カウントによって音を切ることや、ロングトーンによって美しい音を探る。 <p>⑨ 曲名あてクイズ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・答えがわかったら右手を挙げる。 <p>⑩ タンギングを学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲に合わせて手拍子を打ち、「tu」で歌う。 ・説明に耳をかたむけ、板書された言葉を復唱する。 ・「ド」を使ってタンギングの練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・唄口の使用時の周りへの配慮を説明する。 ・唄口を左手で持ち、おへその部分で待つよう促す。 ・ケースから唄口のみを取り出し、ケースを閉じることができているか机間巡視する。 ・配慮事項を確認しながら、くわえ方を説明する。そして、唄口に息を入れ楽しむことを促す。 ・ケースを開けるよう促す。 ・唄口は机上に置かせ、右手でじゃんけん（グー、チョキ、パー）を使って、黒鍵、白鍵を確認し「ド」の位置へと導く。 ・親指の外側で打鍵させることを机間巡視によって確認する。 ・待つ態勢を確認し、楽器本体に唄口をつなぐよう促す。 ・「ド」の音を使用して、カウントで音を切ることが促す。そして、ロングトーンによって長い息を使うことを説明する。 ・児童のよく知る曲を演奏し、曲名あてクイズを行なう。最後には、「しあわせなら手をたたこう（アメリカ民謡）」を演奏する。 ・「しあわせなら手をたたこう」を歌いながら、手拍子することを導く。そして、名称および発音を板書し、児童とともに復唱する。手拍子の部分を「tu」で発音させる。 ・板書内容 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> けんばんハーモニカ うたくち けんばん タンギング 「トゥ」 </div> ・タンギングを説明しながら板書し復唱する。 	<p>唄口の使用方法や、演奏前の約束を守ることができる。</p> <p>右手の使用方法が理解できる。</p> <p>音楽が認識できる。</p> <p>タンギングが理解できる。</p>
-----------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------

<p>展開</p>	<p>⑪ 5本の指を使って弾く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつの言葉を手拍子でリズム打ちし、「tu」で歌う。 ・替え歌によってタンギング練習し、「ソ」から「ド」までを一度に弾く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>1. おやゆび父さん おはよう 2. やさしい母さん おはよう 3. ノッポの兄さん おはよう 4. おしゃれな姉さん おはよう 5. かわいい赤ちゃん おはよう 6. 5人のかぞく ソファミレド おしまい</p> </div> <p>⑫ 片付けの方法を学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・唄口、鍵盤上などをハンカチで拭きケースを閉じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・再打鍵によって音を切ること、および吹き直しによって音を切っていないかなどに配慮しながら、タンギング練習を行なう。この場合、へ長調で「しあわせなら手をたたこう」を演奏すると、第5音の「ド」がとけ込む。 ・「おはよう」のリズムでタンギングを確認した後、「ド」から「ソ」を親指から小指を使って演奏するよう促す。 ・「ソ」から「ド」までを一度に弾くよう促す。 ・「おしまい」の部分で、おへそに唄口があるか確認する。 ・唄口、鍵盤上などをハンカチで拭き片づけることを説明し、机間巡視によって確認する。 	<p>5本の指を均等に使用し、タンギングすることを理解する。</p> <p>唄口の使用方法が理解できる。</p> <p>一人で片付けができる。</p>
<p>終末</p>	<p>⑬ 本時のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・板書された内容を理解し、次の課題を知る。 <p>⑭ あいさつ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・名称の復唱やタンギングにおける留意点、周りへの配慮事項などを確認し、次の時間へとつなぐ。 ・元気よくあいさつし、次の時間へのモチベーションを保つ。 	<p>本時の内容が理解できる。</p>

(3) 考察

教員は、指導案に書き記すことができない様々な教育テクニックを持っているものである。それは、児童との関わり方や担当クラスの雰囲気にも影響されることであろう。しかし、児童に何らかの「積み残し」を与えて授業展開してしまうのではなく、落ち着いた中にも的を得た指導というのが要求される。特に小学校における「音楽科」の授業は、授業のねらいや指導の方向性を明確にして展開しなければならない。

筆者が考える指導事例では、楽しい中にも演奏するためのマナーを盛り込んだつもりである。この指導事例をいかに工夫し実施していくかは、自身の授業に対するスキルを伸ばさなければならぬという課題にもつながるであろう。

Ⅲ 今後の課題

本研究および小学校教育現場における実践をとおして、筆者は、まず、購入後30年を越える自身の鍵盤ハーモニカを見せた。楽器のみならず物

を丁寧に取り扱うことや、大切にすることを伝え授業展開することによって、落ち着いた雰囲気の中で授業を進めることができた。そして、息を吹き込んで演奏する楽器であるため、児童たちの感情をそのまま挿入することができることへの喜びを感じてもらいたいと思いつづけた。好きになり、タンギングなどの技術が身に付くことによって、さらに上達することの喜びにも直面することができるであろう。

今後、第1学年の児童たちが、同じ吹奏楽器として出会うことになる「リコーダー」で、どのような音楽表現ができるようになるのか楽しみである。鍵盤ハーモニカの導入とリコーダーの導入は、ある意味において似ている部分も多いであろう。そして、第3学年におけるリコーダーの導入方法についても探っていきたいと考える。

参考文献

1. 木許 隆他 編著 保育者のためのリズム遊び
幼児・小学校低学年の器楽指導（音楽之友社）
2. 音楽大辞典（音楽之友社）

引用文献

1. 小学校学習指導要領解説 音楽編（文部科学省）